

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	九州産業大学	個人・グループ名	工学部諫見研究室	作品名	商業高校生のための 店舗デザインをテーマとした ワークショップの教材開発と教育実践
-----	--------	----------	----------	-----	---

近年、建築・インテリアへの関心を高める高校が増えている。例えば商業高校は地域社会での販売実習に意欲的であるが、物売るだけでなく店舗もデザインし作りたいというニーズがある。こうした商業高校の先生方・生徒諸君の求めを受けて、私たち工学部教職課程学生を中心に、本学建築学科と住居・インテリア設計学科の学生がコラボレーションして、必ずしも専門知識がない商業高校生でも、短時間でわかりやすかつ楽しく店舗デザインを学べるワークショップの教材開発と授業計画・教育実践に取り組んだ。この取り組みは、建築学科3年次前期科目「建築学特論」（卒業研究の準備科目）で、諫見研究室所属の3年生をメンバーとして開始。7月の本学夏期オープンキャンパスで商業高校生を対象に約2時間のワークショップを試行して教材・実践を検証・改善した後、9月からは住居・インテリア設計学科1年次後期科目「プロゼミナール」（専門教科の導入科目）の計画領域の授業としても採用。これを履修した1年生をスタッフとして10月の本学秋期オープンキャンパスに再び商業高校生を迎えて約2時間のワークショップを実践した。ワークショップの概要を以下に写真で示す。



高校掲示の参加者募集ポスター



事前に準備した材料・道具類



事前に準備した切り抜き素材



ワークショップ会場全体の様子



高校生と対話しながら教育実践



高校生がコラージュ模型を製作



完成したコラージュ模型の一例



投影前の布製の空間スクリーン



リア投影し店舗内部を実物大体験

商業高校生に店舗デザインを教えるために、どのように興味を持たせ、いかに分かりやすく指導するかを時間をかけて議論した。とりわけ商業高校生の頭の中にあるイメージを、どのような方法で具体化・視覚化させるかについて腐心した。専門知識がない商業高校生でも、不要な雑誌やカタログから切り抜き準備した素材を、取捨選択しながら箱に貼り合わせデザインを具体化できる「コラージュ模型」や、こうして製作した模型の映像を左右背面の3方向からリア投影し、商業高校生が自らデザインした店舗内部を実物大体験できる布製の「空間スクリーン」の開発が成果といえる。この取り組みは、日本学術振興会から科学研究費研究成果社会還元普及事業の助成を受けるとともに、九州国際大学附属高等学校女子部・九州産業大学附属九州産業高等学校・久留米市立南筑高等学校・福岡県立稲築志耕館高等学校・福岡県立香椎高等学校・福岡県立福岡講倫館高等学校などの商業高校および商業系総合学科制高校の協力を得て実施した。なおこのワークショップは、今後、取り組むメンバーを3年生から1年生に引き継ぎ、商業高校の正規科目「課題研究」に出向く高大連携実践を検討している。